

第 239号

連 携 室 だ よ り

公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理 念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基 本 方 針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。



帯広第一病院 緩和ケア病棟

今号の内容

- ・帯広第一病院で臨床倫理研修会を開催しました 看護副部長 加藤 広美 (2)
- ・2025年度在宅医療多職種研修会開催報告 北海道医療団 法人本部 総務部長 圓佛 かほる (3)
- ・帯広第一病院 介護連携の会開催報告 地域医療介護連携科長 林 栄一 (4)

帯広第一病院で臨床倫理研修会を開催しました

帯広第一病院 看護副部長 加藤 広美

第1回 臨床倫理研修会

講演：立ち止まる倫理のススメ・ACP

演習：カード方式事例検討

講師：琉球大学医学部附属病院 地域医療部 臨床倫理士 博士（学術）金城 隆展氏

●日 時：令和7年11月27日（木） 9：00～17：00

●場 所：公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院 第一会議室（法人施設 WEB配信）

●参加者：35名（医師、看護師、介護福祉士、社会福祉士、事務員）

【目的】臨床現場での倫理的問題に気づき、問題解決するための知識を習得し患者の尊厳を大切にすることができる。

【対象者】北海道医療団 全職員

医療現場で働く私たちは、倫理的課題を日常的に議論できるような組織文化を作ること求められています。「倫理って何？」と聞かれたら、なかなか言葉で伝えることが難しいと誰もが思うことでしょう。そこで、帯広第一病院看護部教育委員会は、「臨床倫理をみんなで学ぼう！」ということで3年計画で研修を企画しました。

1年目の今年の研修は「講義」と演習として「カード方式事例検討」を行いました。

カード式事例検討とは、8～10名でグループを作ります。それぞれが1人の患者の情報の一部が書かれたカードを1～2枚持ち、質問が出た時にだけ情報を出し、患者の全体像をみんなでとらえていく方法です。演習をやってみた感想は「ご家族の方などから情報を聞くときに『何について』『なぜ必要か』を考えながら確認することは知りたい情報を聞くのに大事なのではないかと思った。「自分の視野の狭さを自覚するとともに、今後の業務に活かせる事例検討だった」「他職種の人と自由に発言できる有意義な時間だった」とありました。

研修全体の感想は「倫理研修は難しいと思って聞いていたが、立ち止まってその人を語る大切さを学んだ」「ACPの根幹が患者本人だという事を再認識でき、今後ACPを行う際、非常に役に立つ」「臨床で発言できない患者や、以前の思いが計り知れない場合の方向性の見出し方など研修を受けた事で、整理できる部分が分かり今後活かしていきたい」など、実際の業務に役に立つという内容が多くありました。

講師の金城先生はユーモアを交えながらパワフルに話してくださり、「倫理」に対する垣根が崩れ、認識が拡大した研修内容でした。

研修を受講した職員を中心に、患者さんにとってのいろいろな「選択肢」が増えていけるよう、尊厳を大切にしたい患者中心の医療・看護を目指します。

次回は令和8年7月を予定しています。

1年目	1. 立ち止まる倫理のススメ 2. ACP 3. カード方式事例検討
2年目	1. ナラティブエシックス（物語の倫理）のススメ 2. 認知症ケアの倫理 3. カード方式事例検討
3年目	1. 医療倫理と医療安全 2. 身体拘束の倫理を考える（90分） 3. グリーフケア（90分） 4. カード方式事例検討



2025年度在宅医療多職種研修会開催報告

北海道医療団 法人本部 総務部長 圓佛 かほる

地域の先生方、医療・介護従事者の皆様には日頃より大変お世話になっております。

去る12月6日（土）、「2025年度在宅医療多職種研修会」（十勝在宅医療ネットワーク、公益財団法人北海道医療団主催）を開催しました。講師には帯広第一病院の平田淳朗緩和ケア認定看護師を迎え、「緩和ケア病棟におけるケア提供体制の実際」と題して講演が行われました。

積もった雪が一気に融けるほど暖かく良く晴れた空のもと、在宅医療・介護に携わる専門職の皆様が会場のとかちプラザに参集し、講師の話に熱心に耳を傾けられていました。

講演では帯広第一病院緩和ケア病棟の概要説明と二つの事例を通じ、緩和ケア病棟での日常の活動の様子やタイムリーな多職種協働、ご本人や家族との関わり、ACPなどについて理解を深めました。『緩和ケア病棟は「最終地点」ではなく、「在宅を支えるもう一つの拠点」』、『病棟と在宅は患者の生活を中心に置くチーム』といった講師の言葉に、参加していた皆様も改めて緩和ケア病棟と在宅とのつながりを意識されたものと思います。

質疑応答では講師からのお答えのほか、参加した十勝在宅医療ネットワーク会員である医師の先生方からもご意見・ご助言があり大変有意義な時間となりました。また研修会終了後も講師のもとには質問や助言を求める人で列ができるなど、専門的な知識を持つ認定看護師に直接相談できる貴重な機会となったようです。

研修会後のアンケートでも全員が「とても良かった」、「良かった」とお答えになり、なかでも「とても良かった」は70%を超え、大変好評をいただきました。これも講師、参加者、関係者の皆様のおかげと感謝いたします。

これからも帯広第一病院はじめ北海道医療団の各病院・施設では地域の在宅医療・介護を支える専門職の皆様と連携し、より良い在宅支援に向け取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



帯広第一病院 緩和ケア病棟のご案内

患者様とご家族様に、よりよい緩和ケアを行うために医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカーなど多職種がチームとなって支えています。

デイルームでは、ボランティアスタッフに協力いただき、カフェ、演奏会を開いています。また、季節を感じる作品を展示し、患者様、ご家族様の心安らぐ時間や環境を提供しております。

大切なペットのご面会、飲酒、面会時間については病棟看護師にご相談下さい。

病室

全室個室18室（個室料無料）

トイレ、洗面所、冷蔵庫、ソファベッドを設置しております。（テレビ・冷蔵庫使用料金別途）

共有スペース

デイルーム、キッチン、バスルーム、ユニットバス付き家族控室（和1・洋1）を設置しております。



問い合わせ先
帯広第一病院 地域医療介護連携科
医療ソーシャルワーカー



帯広第一病院 介護医療連携の会開催報告

地域医療介護連携科長 林 栄一

帯広第一病院では、去る12月4日（木）、「帯広第一病院介護医療連携の会」を北海道ホテルを会場に開催しました。以前より医療機関の皆様との連携の会は、コロナ禍を除き開催しておりましたが、昨年度より介護施設の皆様ともこのような機会を設けさせて頂いており、昨年度同様、帯広・音更・幕別・芽室の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホームの皆様にご参加を頂きました。

前半の講演会では、「高齢者の栄養管理と施設間栄養情報共有の取り組み」と題して、木村千恵里栄養科長より、「嚥下機能評価と肺炎予防リハビリ」と題して、西山耕太郎リハビリテーション科副主任よりそれぞれ講演を行いました。

後半は懇親会の時間を設け、各施設の方々との情報交換をさせて頂き、直接顔の見える形で色々とお話を伺うことができました。

参加された方からは、「医師をはじめ多職種と直接話す機会は日頃なかなか得られないため大変貴重だった」、「講演内容が大変参考になった」、「入所者の急変時に休日でもスムーズに受け入れてもらえた」等のお声を頂きました。また一方で「受診時の待ち時間が長い」、「連携は図れているが向上の余地はあると思う」といったご指摘も頂き、今後の課題として検討していく予定であります。

国が推進する「地域包括ケアシステムの深化・推進」にあるように、介護施設等と医療機関の連携強化が求められています。地域の関係機関の皆様と「顔の見える連携」が構築できるよう、次年度以降もこのような連携の会を開催できればと考えております。



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療介護連携科

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121（病院代表） / 0120-558-091（連携科直通）

FAX 0155-27-0248（連携科専用） e-mail renkei@zhi.or.jp

